

矢作川流域圏懇談会通信

R7 山部会編 vol. 4



発行日：令和8年2月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第74回山部会WGを開催しました！

愛知県岡崎市で第74回山部会WGを開催しました。今回のWGは、テーマ別の活動進捗状況の報告や岡崎市上下水道局経営管理課の方から、「未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト」という乙川の水源涵養林の保全活動について話題提供していただきました。

また、来期の山部会の開催時期についても議論しました。

日時：令和8年2月6日（金） 13:30～17:00

場所：岡崎市民会館

参加者：26名 ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. テーマ別の活動進捗状況の報告



テーマ別の活動進捗状況について、担当者より報告し、意見交換を行いました。

■流域圏担い手づくり事例集（豊田市矢作川研究所 洲崎 主任研究員）

- ・これまでの流域圏担い手づくり事例集活動の概要を説明しました。
- ・流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの構成について紹介しました。また、令和8年1月7日に蔵治先生（山部会座長）と萱場先生（名古屋工業大学教授）の対談を実施し、事例集の冒頭に掲載することを報告しました。
- ・流域圏大学構想の実現に繋がる活動をしている取材先の概要について説明しました。
- ・3月中に取材を完了し、4月中に部会間調整会議（ミライ会議）で編集を行い、次回の山部会（6月予定）を目途に冊子を完成させる工程であることを説明しました。また、取材は誰でも参加可能であることを説明し、参加者を募集しました。

■山村ミーティング（代理：山部会 蔵治 座長）

- ・来年度以降の活動について意見交換しました。
- ・岡崎市や根羽村では、流域内の経済的な繋がりを意識した取組をしていることを説明しました。
- ・岡崎森林組合の荻野氏より、矢作川流域圏における岡崎市と豊田市のような山地を有する中核市に関して論述されたレポートである「林業への参入を促す中核市の実践」を紹介していただきました。
- ・岡崎森林組合の荻野氏より、もりまちの事業内容である「木材の流通」・「空き家対策や就労支援」・「新たな事業分野の模索」について説明していただきました。

■森づくりガイドライン（山部会 蔵治 座長）

- ・林野庁が発表した森林の水源涵養機能における簡易的定量評価手法について、情報共有しました。
- ・降雨と森林の関わりについて、説明しました。林床に達した水が、土壌に貯留され、植物の利用等の過程を経て、河川へ流入する動きを支えるのが森林土壌であり、洪水緩和・水資源貯留・水質浄化へ寄与する「水源涵養機能」を発揮します。また、この評価手法では、水資源貯留機能に着目した水源涵養量のみ定量的に評価できることを説明しました。
- ・令和8年3月に解説資料の完成版とExcel計算ツールを林野庁ウェブサイトで公開予定であることを報告しました。
- ・長良川河口堰30年シンポジウムで、流域総合水管理をテーマとした議論が行われることを報告しました。

■木づかいガイドライン（一般社団法人 森と子ども未来会議 鈴木代表）

- ・額田木の駅プロジェクト令和6年度事業報告書について情報共有しました。
- ・岡崎市中心間政策課の今井氏より、岡崎市森づくり協議会の資料を用いて、木材利用施策の進捗報告について説明していただきました。
- ・岡崎市中心間政策課の今井氏より、豊田市と岡崎市が共同で行っている、下流域の自治体に流域を意識した木材利用を促進する活動について説明していただきました。かつての岡崎市の木材利用基本方針は、市産材・県産材・国産材でしたが、令和7年度から矢作川流域産材を追加したことを報告しました。
- ・額田木の駅プロジェクト副実行委員の日高氏より、岐阜県中津川市の木造の小学校で96%が岐阜県材、64%が中津川市産材の木材を使用する事例を紹介していただきました。

2. 未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの話題提供（岡崎市上下水道局経営管理課 村田氏）



- ・岡崎市は乙川上流域の森林を含むことから、自己水率が75%と高く、市内の森林を守ることで、水道水の安定供給に繋がっていることを説明していただきました。
- ・未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの概要について説明していただきました。また、プロジェクトの目的として水源涵養機能向上と水源林の大切さを啓発することであると説明していただきました。
- ・プロジェクトの活動拠点である桑谷山の概要について説明していただきました。

◆話し合いでの主な意見 (・意見 ➤回答)

1. テーマ別の活動進捗状況の報告

(1) 流域圏担い手づくり事例集

- 流域圏担い手づくり事例集Ⅵ-Ⅱの取材は、3月中に完了したいため、早めに取材者を決定する必要がある。(洲崎)
 - 根羽村の取材に同行したいため、日程を教えて欲しい。(鬼頭)
 - 取材を希望される方は、メーリングリストにエントリーしていただければ、アドレスを登録し、取材に関する情報を共有する。(洲崎)

(2) 森づくりガイドライン

- 蒸発散量等の説明として、国が発表している手法を根拠にできることが良いと思う。(小田)
- 評価手法として、単純化しすぎているように感じる。森林整備の効果を定量的に評価することはできないため、使用用途が限定されるのではないかと。(高橋啓)
- 森林整備の前後における水源涵養量の定量的評価ではなく、「森林」そのものの水源涵養量の評価手法のように感じる。(洲崎)
- 森林整備の前後を評価することができないため、企業の使用目的が不明確である。(鈴木)
- 間伐の前後で立木の密度の変化を考慮して比較すると、簡易的な評価の情報が得られるのではないかと。(小島)
- 水源涵養量に影響を与える蒸発散量が、立木の密度に大きく左右される計算式となっている。また、間伐すると立木の密度が減少するため、蒸発散量が減少し、その結果地表水が増加し、洪水リスクが上昇するという結果になってしまう。(小島)

(3) 木づかいガイドライン

- 木材利用と森づくり活動を紐づけた考え方が大切である。集成材等の加工度が高い木材であれば、それほど管理が行き届いていない森林の木材でも使用可能である。また、それらの木材を一般的な住宅等の比較的コンパクトな物件に使用することで、森づくり活動と紐づけた継続的なモデルとして実現可能である。(今泉)
- 流域産材利用に協力していただける地元の工務店を増やしていくことで、年間の流域産材利用量の増加に繋がる。(鈴木)
- 流域産木材を使用したいと考える施主や工務店、設計者が調達先を分らないことが多い。流域産木材の素材生産から製材加工、流通経路を調査・整理してアドバイスできる体制を作ることが必要だと思う。(鈴木)

2. 未来へつむぐ岡崎の水プロジェクトの話題提供

- プロジェクトの財源はどこになるのか。また、活動拠点である桑谷山にあった桑谷山荘はどのような施設だったのか。(小島)
 - 財源は市民の上下水道の使用料金と参画いただいている企業から一定金額を徴収している。(村田)
 - 桑谷山荘は市営の国民宿舎であり、現在は取り壊されている。(日高)
 - 桑谷山が水源地である山綱川は汚れた川のイメージがあるが、元々は綺麗な川であった。そのような場所がプロジェクトの対象となることに喜びを感じており、楽しみにしている。(沖)



今後の予定

次回の山部会 WG・FW は、令和 8 年 6 月 26 日(金)～27 日(土) 恵那市にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

